



朝一小だより

活気あふれ、心が潤い、一人一人がより良く生きる学校

Tel.048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和7年5月1日

児童数 611名



いつの日かキラキラしてくるのだから

校長 金子 二郎

青い空を背景に、樹々の若葉が大変鮮やかな季節となりました。地球温暖化の表れなのでしょう、最近猛暑の夏が長くなりまた時には大雪をもたらす冬はともかく、春と秋を味わう時間がなくなってしまったとも言われます。それでも、頬をなでる爽やかな5月の風の中に身を置けば、自然と元気が湧いてくるという方も少なくないかと存じます。保護者や地域の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今年度も本校の教育活動にご理解とご協力を賜っておりますこと、まづもって御礼申し上げます。



一年生が入学し3週間ほどが経ちましたが、学校生活にも慣れ、休み時間ともなれば元気に跳び回る児童の声が校庭に響いております。最近学年の別を問わず、話し掛けられる機会も増え、感心させられたり「負けてられないな」とエネルギーを分けてもらったりします。「大きくなったら〇〇になるんだ」と、自分の夢を熱く語ってくれる児童もたくさんいます。これまでも学校だよりで夢を実現するために

努力することの大切さに触れてきましたが、実は私自身はというと小学生だった時分はあまり周囲の気にすることもなく、どちらかと言えばのんきだったせい将来の夢についてあまり真剣に考えた記憶がないので、羨望すら覚えます。それでも、若い頃には今しかできないことに夢中になり充実した毎日を送ることも、具体的な将来の夢をもつことと同じくらい大切なのではと思います。日本ペンクラブ編の「泣いたあとは、新しい靴をはこう。」(ポプラ社)の中で、「ぼくには夢や目標がありません。(中略)ぼくは、



どうしたら変わるんでしょうか。」という中学生の男性からの質問に対し、児童文学作家の芝田勝茂さんは次のように答えています。「…いま、きみに夢や目標がないんだったら、それでいいよ。キラキラしているひとだって、最初からキラキラしてるわけじゃなくて、きっと、たまたまそういう出会いがあったんだと思う。それに気づいたひとだとも思う。でも、気づいてよかったかどうかは、だれにもわからない。ただ、必死にやっているだけなんだろう。(中略)大切なのは、世の中を、いろんな人間を、すなおに見つめることができるかどうか、じゃないのかな。ねたんだり、うらやむんじゃないで、ありのままのそのひとを、しっかり見つめることができるかどうか。そこからすべてがはじまるような気がする。…」柴田さんの言葉は最後に「ひとは笑うかもしれないけど、ほんとにたたかっていると、そんなことは気にならない。そんはひまは、ないんだよ。」と締めくくられています。7歳でも12歳でも20歳でも60歳でも、わき目も振らずたたかうことのできる何かを見つけるチャンスは訪れると信じ、気長に待ちたいものです。



他人のように上手くやろうと思わないで、自分らしく失敗しなさい (大林 宣彦)